

2013年優勝者のオーレ・オルソンさんはRally Raid Swedenを引き連れてハスクバーナで参戦。「ダートスポーツのダイゴ〜!」と呼ぶ、気さくなタフガイです

本誌宮崎編集長
Husqvarna FE501で
3年連続完走!



アンコールワットを目指して2,000km走破! アジアクロスカントリーラリー2016 参戦記

スタート地点には地元のギャラリも大勢集まります。「絶対完走、取材しなければいけないだから…」と自制心を働かせる僕だけど、スタートだけはどうしても気持が高まる。幼い頃にTVで見たバリダカのスタートシーンを思い出します



タイのリゾート地バタヤをスタートして、本大会初の海岸沿いルートでカンボジアへ入国。超マッドからハードパックまで、あらゆる路面を駆け抜けて辿り着いた先に、世界遺産のアンコールワットが待っていた…。本誌編集長宮崎の、3年目の挑戦をレポート!



宮崎 大吾
本誌編集長。45歳。2014年にマップやトリップメーカーの使い方もわからないまま参戦し、ガス欠やミスコースなどに見舞われながらも完走。今年で3年目のAXCRチャレンジとなります

TEXT/D. Miyazaki 宮崎大吾



第21回 FEDERAL-VESSEL アジアクロスカントリーラリー2016
 ■日時：2016年8月13日～19日
 ■開催地：タイ・カンボジア (PATTYA・CHANTHABURI・KOH KONG・SIHANOUK VILLE・PHNOM PENH・SIAM REAP)
 ■主催：オルティブタイランド・R1ジャパン
 ■公認：FIA・FIM・RAAT・FMSCT・CMSF
 ■協力：タイ国政府観光庁・カンボジア観光省・カンボジア政府観光局・カンボジアオリンピック委員会・バタヤ市/タイ王国・シエムリアップ市/カンボジア王国
 アジアクロスカントリーラリー日本事務局 TEL03-5911-3844 www.r1japan.net/axcr



四輪は減ったが二輪参加者は46台に急増。日本人ライダー25台エントリー(出走24台)と、昨年から一気に10名も増えました。僕が初参加した2014年とは大きく様変わりし、その勢いはこの先も収まりそうにありません
PHOTO/M.Takahashi 高橋学



バタヤのオフィシャルホテルからセレモニースタート地点まで、パトカー先導のコンボイで移動。住民や観光客の目をひきます。前日タイ南部で起きた爆発テロの対策として、繁華街ウォーキングストリートから、市役所へ場所を移動



SS1で抜群の好タイムを出し、その後も安定してミスなく早くゴールしたタイのJakkrit Chawtaleが、オルソン、池町佳生選手を抑えて優勝を果たしました
PHOTO/M.Takahashi 高橋学

胸が踊ります!

そしてAXCR一行はカンボジア国境を渡りました。2年ぶりのカンボジア

肝心のSSは、僕は写真を撮りながら進んでいたのですが、とくに危ない場面はなし。1年ぶりのラリーだから、このくらいの余裕が、僕にはちょうどいいです。

続く2日目SS2は83.67kmと短いながらも、昨年のチェンマイを彷彿させる赤土が出現。あっという間に90度以上ターンしてしまっほほど滑る。関東の方には「雨の勝沼より滑る」という表現がわかりやすいです。

一度こんなことがありました。深い水たまりを避けるように前走車が横の林に迂回したワダチがあり、そこをトレースしていくと、いつのまにかミスコースをしていました。もちろん自分では正しく進んでいるつもりなので、突如マップに書かれていない所に出でます。毎年参戦している山田伸一さんの予想によると、迂回せずに水たまりのまま進んでいく、おそらく正しいルートがあったのではないかと、ということ。いやあ、相変わらずナビは難しく面白い!

タイとカンボジア、異なる2国の路面に対応できるか

ラリーは不思議な魅力を持つモータースポーツです。本誌では風間晋之介氏のメルスガラリー、REE氏の北海道4デイズ、そして僕のAXCRレポートを掲載してきましたが、いずれも生粋のラリー好きだったわけではなく、むしろラリーとは正反対のモーターサイクル志向を持っていたはず。それが、いまや皆がラリーの虜になっている。この面白さは、汗をかき、不安や喜びや達成感を感じて得られるもの。だから、この記事を読んで興味を持ったなら、すぐにも来年の心の準備をしておいてほしいです。

2014年、2015年と参戦した僕のウェブ&誌面記事を何度も読み返して今年のAXCRに挑戦してきたライダーが多く、素直に嬉しかったです。今回のラリー中も、そんな話をたくさんいただきました。同時にちゃんと伝えなくてはならないという使命感、責任感も感じずにはいられませんでした。

さて、今年のAXCRも、僕は何度か冷や汗をかいています。まずタイへの出航日を1日間遅らせていたのは愛嬌として(直前に指摘されてセーフ)、初日LEG1から軽くテンパリモード。この日のSS1が216.79kmと大会中最も長い。AXCR特有の分岐の細かさから、マップはかたりのボリュームになり、ホルダーに入りきらないのでは? という不安がまず1つ。SSは途中PCチェックがあるが、その際の巻き直しは時間がかかるので焦りも出るし、後半のスタート時間に間に合わなければ遅着ヘナルティを食らう。

そこでハスクバーナ仲間の梶野雄念さん、高橋主剛さんの、ホテルからSS1スタート地点まで143.26kmのリエゾンマップを捨てて、誰かに着いていくという作戦にやらせてもらうことにしました。これでSS全行程のマップを巻くことができた! ラリーはこんな風に頭と体を使うゲームです。

しかしもう一つ問題が、SSスタート地点で予定していたガソリン補給ができなかったのです。高橋さんら数人は急遽ガソリンスタンドまで引き返していきましたが、僕は15リットルタンクに半分ほど入っているガスを見て、優柔不断に陥る。方がスタートに間に合わなければ…。ビッグタンクだから何とかなるんじゃないか…。昨年の経験上、たぶん大丈夫だろうと見てもそのままスタート。結果的には無事走りきり、前半フィニッシュ地点にあるスタンドで補給することができました。



大会前日に恒例のFB(古河電池)主催のウェルカムパーティが開催。プール脇の特設会場はまさにリゾート気分



SS8スタート地点で待機していると、牛の大群に囲われました。興奮してアタックしてきたり、尿をかけられたりと、なかなかワイルドな経験

高級時計専門店エテノワールの小野代表は、オフロード経験が浅いながらも初ラリー参戦。高速右コーナーを曲がりきれずに深い溝にダイブ。近くにいた小柳さんと僕がトラクターを呼んで引き上げ成功! 小野さんは終始楽しそうで、ラリーを満喫していました

最終SSは簡単、というのは嘘で、腰の深さまであるウォーターベッドが連なっているじゃありませんか(笑)。倒せば水没。脳の迂回路もタイヤ1本分くらいの幅で油断すると落ちてしまう! アンコールワットが予想以上に速い!



グラマラスなコンパニオンが多いのもAXCRの魅力であると断言しましょう



アクセルを緩めなきゃ。でもまだいける。真夏のカンボジアをフルスロットル!

男の子達が駆け寄ってきて見守るなかバンク修理の関島さん。帰りのSSでもバンクで転倒。サービスで再び修理した遅れを取り戻すため、ホテルまでのリエゾン248.75kmを猛ダッシュで駆け抜けたといいます。タフなLEG3だったよう



高速ダートにスコール! ビビリまくるが楽しい!
主催者は今年のカンボジアアルトをマディの難コースとして捉えていました。事実日本人向けプリーフイングでは悪コンディションを想定していて、僕も参戦3年目にしてはいよいよスタック大会を覚悟したので。2014年にもヤバいだった。しかし蓋を開けてみると、どこまで走っても道は乾き、とてつもない超高速ダートと化していました。しかしLEG3のSS3は様相が異なりました。海沿いの高速山間フラットダートを往復するSS。途中から強烈なスコールに見舞われたのです。「マジか、ここで来るか?」

視界はほぼゼロ、おそろおそろ進むなかで、視界に飛び込んできたのは立ち止まっているライダーの姿。「何かがある!」ととっさに感じた先に、いきなり増水した川がありました。視界はほぼゼロ、おそろおそろ進むなかで、視界に飛び込んできたのは立ち止まっているライダーの姿。「何かがある!」ととっさに感じた先に、いきなり増水した川がありました。

翌LEG4からはとにかくワイドオープンのコースが続きました。この日はSS総距離125.24kmと短く早めにブノンベンホテルに戻る事ができました。ここで僕はまた恥ずかしい失敗をします。夕食の前に翌日のマップをもらうのがセオリーなのに、この日に限って夜もえはいだらうと甘くみて、近くのマツサージ屋に行ってしまうのです。ホテルに戻るとHQ(ヘッドクォーター)はとくに閉まっています。マップをチェックし、マーカーをひき、変更点を書き加えるなどの作業ができない! 明日のスタートに間に合うのかと不安になり、翌日は4:00に起床しました。ロビーに降りてくるスタッフを待ち続け、ようやくゲットして急いで巻きつける。いや、お恥ずかしい失敗です。LEG5はすさまじい高速コース。僕の「ビビリミッター」が、アクセルを閉じさせようとしていますが、一方で「まだいけるだろ?」と囁いてくるんです。これは怖い。FE500は低速トルクも素晴らしいけれど、高速の伸びがまた至極なんです。心のどこかで注意していたはずなのに、段差に気づいてブレーキングしたまま突っ込み、フロント着地という危険な瞬間もありました。目の前に火花が飛び、「いま、かなりヤバかったんだ」と呆然としながらも、道は続きます。そこからは家族のことや、スポンサーのことを考えて、無事にゴールすることができた。僕はAXCRの「酸いも甘いも、たくさん伝えていきたい」と思います。



一年ぶりのラリー、しかもSS1でいきなりマップ修正が入ったので前夜は緊張しました。心配なので同じ絵を2枚貼り付けておきました。その後スクリーンを破損したので正解!



SS2は昨年苦勞させられた、あの異様に滑る赤土が出現! あつと気付いたときはコントロール不能になるんです。草むら走ったらどうなのかとか、ぜひ復習してみたい(笑)



参戦記

女性初AXCR二輪参戦のメグさん、見事完走!

「アジアクロスカントリーラリー。初めてチャレンジした国際ラリーは期待を裏切ることなく私の心にくさんの感動を刻み、カンボジアのアンコールワットにてフィナーレを迎えました。ラリーの語源である「再び集う」という言葉が思い浮かんだフィニッシュゲートをくぐり抜ける瞬間。また来年も走りたい。そう思わせてくれる素晴らしい6日間でした。国際ラリーにこれから参戦したいと思っている方に向けて、AXCRに初めて出場してみた素直な感想を書きたいです。まず、こうした国際レースでは、何事も受け身の人は向いてないなって感じました。特にこのAXCR、2輪のMOTO部門はまだ4年と歴史の浅い大会です。だから、公式発表の内容と実際がその場で変更になることも多々あります。そういう時はライダー同士で情報共有をし、みんなで協力しながら行程をクリアしていくのです。私も最初は戸惑いましたが、ここは異国なんだ、という納得するようにならない理由ですぐに順応しましたね。そうした臨機応変さ、自発性が必要とされるラリーです。

次に気になるのはやっぱり整備環境ではないでしょうか。AXCRの宿泊地はすべて4つ星クラスのホテルです。ゴールしたらすぐにでもシャワーを浴びることが出来ます。ウエアから整備着に着替え、アスファルトの駐車場などで快適に整備が出来るのです。また、日本チームにはハスクバーナ東名横浜の大崎氏が率いるジャパンサポート隊がいます。サポートと言っても基本、サービスエリアでの給油のみのサポートですが、マシンが大破した際には、夜遅くまでライダーをサポートしている姿がありました。私の場合、整備と言ってもタイヤ交換、オイル交換、各所増し締めくらいしかしていません。競技中は基本、ひとりですぐにかしなくてはならないのがラリーです。整備力に自信がない私は、まずは転倒しないこと、マシンを壊さないことを優先に走りました。ラリーに出るには整備が出来ないと。よく言われる言葉です。しかし、パンク修理などの基本整備さえできれば、あとはマシンを壊さず走る。冷静にそれを守る人であれば、誰にだってラリーの門は開きます。

次にぜひお伝えしたいのは、毎日の食事! これは本当に美味しかったです! ホテルはもちろんなのですが、競技前の整備DAYに仲間を訪れたタイ料理屋のご飯の美味しいこと! 海外のラリーでは、開催国によって食事事情が大きく変わります。そういう点でAXCRは、グルメなライダーを十分に満足させる質の食事が毎日楽しめますね。意外とここ、大切なところなんです、ラリーには。だって、長丁場のラリー、美味しいものをガツツと食べて、何百キロも走り続けるスタミナを確保することがまずは優先なのですから。異国の地をラリーで走るという事。純粋な競技としての側面と、現地での心の交流、旅としての側面。それらを併せ持つラリーだからこそ、人は魅了され、再びこの地に集まるのだと思います。みなさんもぜひ、アジアの風を感じてみてください。そしてまた、再びこの地で集ましましょう。(前崎恵/Team VESSEL FB Husqvarna NIPPON-FE250J)



僕の記事を読んで参戦を決めたという小柳拓也さんは、CRF250Lで完走。SS1のスタックポイントで一緒に引き起こしたり、リエゾン途中の屋台で食事したりと、いろいろ楽しいことがありました



SS1でパンクした真田さん。胎玉と交換に空気を入れてくれた地元ギャラリー。みんな優しいなあ。真田さんにはGPSを使った遊び方とかいろいろ教えていただきました



足を痛めたりして身体的にキツそうだった小野さんだけ、リエゾン含めて最後までめっちゃくちゃ楽しそうでした

本誌9月号で紹介したアルマイトの「コーケン」の吉野幸夫さんは、初日にタイヤ内のムースが飛び出してDAYリタイア。しかしその後は無事走りきってアンコールワットに到達しました。ヘルメットを脱いだ瞬間、安堵と満足感がみなぎっていました!



ついにアンコールワットまでたどり着いた! 2014年は通過点でしたが、今回はフィニッシュ地点。すべてのLEGを走りきったのです



その坂本さん、SS1のスタックポイント(上の小柳さんと同じ場所)で、トラクターに引っ張ってもらった

最終SSで知らない村に迷い込み、無事生還した坂本武嗣さん。優しい言葉に男泣きの瞬間! 6日間いろいろなドラマを見せてくれて感謝!



SS3でぶっ飛んだ真田さんと小池さん。小池さんは翌日リタイアしてツーリング。店だと思って寄った家のホームパーティーでなぜか馳走になるという面白いエピソードが実はあるんです(笑)

大崎徹のチームジャパンサポート日記



「サービスクルーの一日の始まりは早い。参加者の増加に合わせて、スタート時間がかなり早まっている。ホテルから出てみると、トラックに積まれていない大量の荷物…。荷物の積み込みはライダー自身の作業のはずいけど、何せ今年は人数が多い! ライダーたちはすでにスタートの準備に入っているの、今更荷揚げをするように言える雰囲気ではない。全員汗だくになりながら積み込み完了! うん、いい雰囲気。新しいチームも悪くない! 今年のサービスクルーがフォローするのは日本人25人とインドネシア人2人。対して、サービスクルーは4人。うち1名は別チームのスタッフなので、実質3人に対応することになる。ちなみに昨年はライダー16名に対し、クルーは4名。途中でリタイアしたライダーも加わり、割と楽で来ていた記憶がある。用意された2台のトランポを、ベースの速いライダーをフォローするAチームと以降のライダーをフォローするためBチームと分け、自分はBチームのトランポに乗り込んだ。スタートして、まずは大きなガソリンスタンドを目指す。SAで使う全員分のガソリンと、飲み物や氷などを買い付けるためだ。準備するガソリンは500Lオーバーに、中継地点でライダー達に提供するコーラ、スポーツドリンク、濡れタオル、栄養補給ゼリーを約三十人分。国道を快調に飛ばす! そういえば、タイの地方に行くとも道にスピード制限の看板を見たことが無い。順調に距離を伸ばす我々のトランポ

に、Aチームから無線が入る。早口のタイ語で話しているが、ドライバーからはいつもの笑顔が消えている。どうやら道をロストらしい…。サービスクルーも、ライダーと同じルートマップに沿って目的地を目指す。ちなみにバイクは10m単位で距離がわかるラリーコンピューターが搭載されているけど、クルーの車はいわゆるただのハイエース。100m単位でしか距離が測れない上にドライバーご自慢のインチアップホイール&改造多数なので、そもそも距離が合う方が不思議に思える! それでも昨年までのドライバーなら、その誤差を感覚的に埋めてくれたけど、やはりラリーサポート経験が無いドライバーにはなかなか厳しいものがあるようだ。日本以外の国においては、プロに口を出すのは信頼関係の崩壊を意味する。とはいえ、今回の事態は緊急を要す。とりえず現状の確認と、想定される到着時間を確認して、安全に走ってね、と伝える。ドライバーさんなんだか素直。何とかルートを探りながら正規のルートに復帰。セカンドグループの到着には間に合うかな…。小さな望みも打ち壊すような穴ほこだらけの道が現れる。平均時速は急激に低下…このあたりで腹をくくる。落ち込むドライバー…そうだ、こんな時こそいってや言葉があった! 『マンバンライ』大丈夫だ! 午後から頑張ろう!! というわけで、半日でこれだけ素敵な時間を6日間過ごせる2017AXCRのサービスクルーを絶賛募集集中です!(大崎徹)

笑えるほど滑る土、魔力に襲われる超高速ダート、突然の猛スコール、川渡り、ジャングル、村落、都会の雑踏… タフに駆けた6日間



昨年マシントラブルリタイアのリベンジで完走した梶野さん。パンクや池ダイブなど色々ありながら生き抜いてました。右はサービスマンとして働いた中央自動車大学の原君。働き者でタフでライダーからの評価高し



初ラリー参戦のために、初めてのビッグオフF800GSを購入した伊山誠耳さん。LEG1で苦労していましたが、その後順調にLEGをこなし完走。果敢な挑戦は本大会の話題に!



Team FB Japan(池町、前田、江連)は、念願のチーム優勝を獲得! PHOTO/M.Takahashi 高橋学



池町さんは個人総合3位を獲得



ついにアンコールワットに到着! リタイアしてしまった人も完走した人も、とりえずお疲れ様でした!

Husqvarnaが僕たちをゴールに導いてくれた!!

2014年のFE501、2015年FE450に続き、今年はFE501で挑戦したAXCR。
毎年書いているけど、本当に非の打ち所がないマシン。AXCRには最高の相棒です

Husqvarna NIPPON、 無事アンコールワットへ!



大会メインスポンサーでもあるVESSELのハンドツールは絶品。ハスクバーナのシートボルトに対しては、このハンドルソケットが長さも幅も絶妙でした(問:ベッセル フリーダイヤル0120-999-914 www.vessel.co.jp)

ラリー完走を
助けてくれた
最高の
アイテム



3年目のAXCRもIRCタイヤで無事完走。フロントはiX-07S、リアはBR-99。中身は弾力が残っているBIBムースでした。あらゆる路面に対応できるのが嬉しいです(問:アイアールシー井上ゴム工業 フリーダイヤル0120-041718 www.irc-tire.com/ja/mc)



BELRAYの[RACING WORKS THUMPER 10W-50]を使用。毎日の長距離走行にもしっかり対応できる高性能オイルが、ラリーには大切です(問:トライスターインターナショナル TEL03-3779-5131 www.belray-japan.com)



シートコンセプト社のコンフォートシートは、後部の幅が広くて着座が多い僕には最適。圧を分散してお尻の負担を軽減。明らかにお尻の痛みが少ない。これは最高!(問:ハスクバーナ東名横浜 TEL045-465-6071 www.husqvarna-yokohama.com)



ケミカルは高性能を誇るヴィプロスを持参。高負荷型のグレイージュと、低粘度型のレイキッシュを使い分け。シリコンブヤパーツクリーナーもオススメです(問:ヴィプロス TEL03-5664-6801 www.vipros.jp)



SS1で出現した川渡り。僕はちょっとラインを外れてガレた所に着岸したけど、扱いやすい低速特性で、しっかりトラクションしてクリアできました。3年間で4回くらいと、転倒が少ないのもハスクバーナのおかげに違いないです
PHOTO: M.Takahashi 高橋学



Husqvarna FE501 (MY2016)

パワフルながらも扱いやすいSOHC510.4ccエンジンを搭載するFE501。2014年に買ったモデルも素晴らしいのですが、2016は操安性がさらに増えている、タイトなジャングルや市街地も苦にならない軽快性がありました。カンボジアの高速SSはもちろん感動するほどの加速と高速巡航が可能

Special Thanks:

Husqvarna Motorcycles Japan
TEL03-6380-7020
www.husqvarna-motorcycles.com/jp
Husqvarna Tomei Yokohama
TEL045-465-6071
www.husqvarna-yokohama.com



今年からFE450で参戦の石井進さん。SS1のマップステア緩み以外はほぼノントラブル。日々の練習の成果なのでしょう。終始まったく追いつけませんでした!



2014年以来2度目の参戦の高橋主剛さんは今年はFE501で出場。残念ながらLEG4のクラッシュで肋骨を折ってリタイヤ。また一緒にゴールを目指したいです



FE501で初参戦の泉本拓也さん。LEG3で最速タイムをマークしてFB賞(10,000タイパーツ)を獲得! 国内外の強豪を相手に速さを発揮していました



昨年までの2ストからFE501にスイッチした梶野さん。数度のバンクや池落ちなどのトラブルを経て、無事完走! 僕もずっとお世話になっている人です



2年目の参戦となるFE350のドクター、首藤寛さん。「LEG1はノントラブル、LEG2でミスコースしたのが悔まれる」とご本人。でも毎日確実にゴールしていました

カンボジアのリエゾンでは極端に遅い車を次々と抜いていかないといけないのですが、アクセルひくと捻りで加速するので身体的にも精神的にも楽。これもラリー性能といえるのだと、改めて感じた今年のAXCR。FE501は、とにかくライダーに楽をさせてくれるマシンです。流れについていく。思った通りにマシンが加速し、曲がり、とまる。この根本的な性能が抜群に優れているので、ラリーの長丁場で身体的負担が少ないのです。

15リットルタンクに燃料満タンになるとさすがにフロントヘビーになりますが、操安性の高さ、WPサスペンションの走破性が、僕を助けてくれるのがわかります。今年の大会では、LEG2の赤土やLEG3のクレバスと段差。赤土では車体がクルクルと回るほど滑るのですが、なんとか踏ん張ることができ、LEG3のクレバスは怖くて避けているうちに完全にラインから外れて崖のほうまで落ちてしまったのですが、なにごともなく復帰できました。

そして一番ヤバかったLEG5の前転モーメント。これは僕の操作ミスによるものだけど、2014年最終LEGと同様、フロントからダイブしたにもかかわらず、WPのサスペンションが吸収してくれて事なきを得たのです。

そして今年もマシンはノントラブル。これが整備時間を短縮させ、翌日の準備や休養時間確保(僕の場合、深夜にレポートを書くのでなおさら重要!)のために大事なこと。かくして今年も断言できます。ありがとうFE501! 最高の相棒!

**3年連続ノントラブル完走
FE501はベストチョイス!**